中期中絶ケアにおける助産師の感情と関連要因の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 未希 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003383

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 45 号

中期中絶ケアにおける助産師の感情と関連要因の検討

（Consideration of midwives’ emotions and related factors in caring for women who have undergone an induced second-trimester abortion）

齋藤　未希（さいとう　みき）

博士（看護学）

論文内容の要旨

【目的】

妊娠 12 週以降の人工妊娠中絶（以下、中期中絶）のケア場面では、専門的価値観と個人的価値観の対立から、ケアの担い手である助産師に葛藤が生じやすい。葛藤に折り合いをつけるには陰性感情に対処する必要があるが、その実態と関連要因は明らかになっていない。

本研究では、中期中絶ケアにおいて助産師に生じる感情を測定する尺度を開発し、その実態を把握するとともに関連要因を明らかにする。

【方法】

文献研究を基に「中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度」案 55 項目を作成し、計 84 項目からなる質問紙を作成した。首都圏の分娩取扱施設 300 施設に研究協力依頼文書を送付し、自記式無記名質問紙調査を実施した。調査後、項目分析および探索的因子分析を行い、信頼性と妥当性を検討した（研究１）。

完成した尺度を含む計 66 項目の質問紙を作成した。令和 2 年の人工妊娠中絶件数上位 8 都道府県の分娩取扱施設 600 施設に研究協力依頼文書を送付し、自記式無記名質問紙調査を実施した。調査後、2 変量解析および尺度の信頼性の検討、尺度総得点を従属変数、基本的属性および関連が想定される要因を独立変数とした重回帰分析（強制投入法）を行った（研究２）。

【結果】

【ケアへの肯定的認識】【児に対する陰性感情】【女性に対する怒り】【ケアへの否定的認識】【ケア技術への自己評価】【女性の周囲へのいらだち】から構成される「中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度」を作成した。尺度の併存妥当性、構成概念妥当性、内的一貫性が確保された。

中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度総得点は平均 75 点前後であり、項目平均値は【ケアへの否定的認識】が最も高く、次いで【ケア技術への自己評価】が高かった。重回帰分析の結果、尺度総得点と「女性へのケア（共感できない態度）」、「児へのケア（生きたまま娩出）」、「助産業務」、「自信」、「技術の向上」が正の関連、「中期中絶ケアへの従事期間＜3～10 年未満＞」、「女性からの肯定的フィードバック経験」、「医師との連携への課題」、「中絶に対する考え＜中絶は選択肢＞」が負の関連を認めた。

【結論】

「中期中絶ケアにおける助産師の感情尺度」を開発し、信頼性、妥当性が確保できた。さらに、中期中絶ケアにおける助産師の感情の実態と関連要因が明らかとなった。陰性感情の低減には、中絶を受ける女性について正しい認識を得るための教育、自らのケアと感情を理解するためのデブリーフィング、参加者が安心して感情表出できるケースカンファレンスが有効と考えられた。